

日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動しています。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の事務局として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担っています。令和元年度（2019年）は、川づくりに関わる情報共有基盤の整備、川づくりの担い手の育成に向けた普及・啓発や協働・支援、国際的な技術交流に取り組みました。

川づくりに関わる情報共有基盤整備



JRRN ホームページ



JRRN facebook



JRRN ニュースレター

- ホームページ（計 242 件更新）
- facebook（計 234 件更新）
- ニュースメール（毎週配信・計 50 回）
- ニュースレター（毎月発行・計 12 回）
- 水辺の小さな自然再生 ホームページ & facebook 運営管理

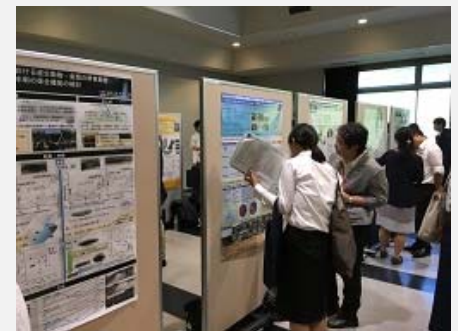
川づくりの担い手の育成及び協働・支援



秋田県「多自然川づくり iRIC 研修会」協力(2019.5)



「第 1 回北海道の応用生態工学」協力(2019.5)



「水辺の小さな自然再生」普及促進・学会発表(2019.9)

川づくりに関する冊子等の発行



- 桜のある水辺風景 2019 写真集（2019年7月）
- 水辺の小さな自然再生事例集第 2 集（2020年3月）

川づくりの国際的な技術交流



香港政府渠務署技術交流(2019.5)



香港大学・水の持続性国際シンポ参加(2019.7)



第 16 回水辺・流域再生国際フォーラム(2019.10)



第 14 回 ARRAN 運営会議(2019.10)



台湾台中市政府水利局及び逢甲大学技術交流(2019.12)



香港政府渠務署技術交流(2020.1)



台北大学都市計画研究所技術交流(2020.2)

2019年度 事業報告書

日本河川・流域再生ネットワーク

自 2019年4月1日
至 2020年3月31日

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)は、川づくりについて共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい川づくりの技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目指して活動しております。また、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、中国や韓国など ARRN 会員や海外関係機関との連携を通じ、日本の優れた知見を海外に向けて発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担っております。

2019年度は、川づくりに関わる情報共有基盤の整備、川づくりの担い手の育成に向けた普及・啓発や協働・支援、国際的な技術交流に取り組みました。また、会員に関しては、団体会員は 60 団体、個人会員は 800 人となりました。

1. 2019年度実施事業

【1】 川づくりに関わる情報共有基盤整備

国内外の川づくりに関連する報道ニュース、行事情報、活動事例、新刊案内、行政ニュース等について、ウェブサイト、facebook、YouTube ページ、ニュースメール、ニュースレター等を通じて広く社会に発信し、情報循環に努めました。また、JRRN 会員や海外連携機関（ARRN 会員組織、英国河川再生センター、欧州河川再生センター等）からの川づくりに関わる各種提供情報の共有を図りました。

2019年度 JRRN 情報媒体の活動実績 ※()は前年度

| JRRN 情報媒体 | 頻度 | 合計 |
|-----------|------|---------------|
| ウェブサイト | 随時 | 242 件 (284 件) |
| facebook | 随時 | 234 件 (249 件) |
| ニュースメール | 毎週配信 | 50 回 (51 回) |
| ニュースレター | 毎月発行 | 12 回(12 回) |

また、「小さな自然再生」研究会の幹事として「水辺の小さな自然再生ウェブサイト」及び「水辺の小さな自然再生 facebook」の運営管理を担い、水辺でできる小さな自然再生に関わる情報共有を推進しました。加えて、ARRN ウェブサイトの運営・管理を担い、ARRN 活動成果やアジアにおける川づくりに関わる情報の普及に努めました。

【2】川づくりの担い手の育成及び協働・支援

川づくりの普及・啓発と人材育成を目的とした行事を企画・運営し、また全国の川づくり団体が取り組む活動の協働・支援を担いました。

(1)「桜のある水辺風景 2019」写真公募と写真集制作・普及

水辺がつくる美しい景観の未来への継承を目的として、2019年に撮影された「桜のある水辺写真」を一般より募集し、37名・71点の作品を応募頂きました。応募作品は写真集としてとりまとめウェブサイトで公表しました。

(2)水辺でできる「小さな自然再生」の全国普及 《河川基金助成事業》

2014年度に発行した「水辺の小さな自然再生事例集」の続編として、全国の河川や水路における小さな自然再生の担い手の方々に協力頂き、最新の知見や新規14事例を盛り込んだ「水辺の小さな自然再生事例集 第2集」を制作・発刊し、全国に普及しました。

(3)川づくり団体との協働・支援

JRRN 会員を含む川づくりに関わる諸団体が取り組む下記の公益活動に対し、企画や行事開催、広報等の支援や協働活動を担いました。

国内の主な協働実績

| 年月 | 団体名等 | 協働内容 |
|---------|--------------------------|-----------------------------|
| 通年 | JRRN 会員を含む川づくり団体 | 行事案内や刊行物の広報等 (合計 43 件) |
| 通年 | 水の巡回展ネットワーク(jawanet) | 「雨展」企画・運営協力 |
| 通年 | 応用生態工学会 | 委員会活動協働、応用生態工学会 札幌主催行事協力 |
| 2019年5月 | 秋田県建設部河川砂防課 | 「多自然川づくり iRIC 研修」企画運 営協力 |
| 2019年6月 | 隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員 会 | 「隅田川クリーン大作戦」企画運営 協力 |

【3】川づくりの国際的な技術交流

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の事務局及び日本窓口組織として、ARRN メンバーによる技術交流を目的に毎年開催する『水辺・流域再生国際フォーラム』を運営し、日本における川づくりの経験のアジアに向けた普及に努めました。また、川づくりに関わる海外政府機関や研究機関が主催する行事への参加、来日視察団との技術交流や研修を受け入れ、国内行政機関の協力を得ながら日本における川づくりの技術、施策、具体事例等の橋渡しを担いました。

国際的な技術交流実績

| 年月 | 団体名等 | 交流内容 |
|---------------|-------------------------|--------------------------------------|
| 2019年5月28日 | 香港特別行政区政府渠務署 (DSD) | DSD 職員約 50 名を対象とした技術研修会参加 (講演等) |
| 2019年7月11-13日 | 香港大学社会科学院 | 「水の持続性に関する国際シンポジウム」参加 (講演等) |
| 2019年10月22日 | アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) | 「第 16 回水辺・流域再生国際フォーラム」企画運営 (豪州ブリスベン) |
| 2019年10月23日 | アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) | 「第 14 回 ARRN 運営会議」企画運営 (同上) |
| 2019年12月4日 | 台湾台中市政府水利局及び逢甲大学水利発展中心 | 「河川再生」参加 (講演等)、現地視察及び技術交流 |
| 2020年1月14-18日 | 香港特別行政区政府渠務署 (DSD) | 高潮・洪水対策・河川環境改善に関わる現地視察及び技術交流 |
| 2020年2月1日 | 台北大学都市計画研究所 | 都市河川再生に関わる現地視察及び技術交流 |

2. 会員の入退会数及び現在の会員数

団体会員、個人会員の入退会数及び 2019 年度末現在の会員数は次表の通りです。

2019 年度 JRRN 会員の入会・退会状況

| 会員区分 | 2018 年度末 | 入会数 | 退会数 | 現在数 |
|------|----------|-----|-----|-----|
| 団体会員 | 60 | 0 | 0 | 60 |
| 個人会員 | 795 | 14 | 9 | 800 |

【お気軽にお問い合わせください】

| | | | |
|--|---|--|--|
|  | 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局 | | |
| | 〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF茅場町ビル7階 公益財団法人リバーフロント研究所 内 Tel: 03-6228-3865 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@arr.net URL: http://www.arr.net/jp/ Facebook: https://www.facebook.com/JapanRRN | | |